

各位

2019年2月15日

ニッセイ情報テクノロジー株式会社

平成30年度老人保健健康増進等事業に参加

ニッセイ情報テクノロジー株式会社（本社：東京都大田区、代表取締役社長：鬼頭誠司）は、厚生労働省平成30年度老人保健健康増進等事業における補助金調査研究事業の認知症・フレイル予防研究調査事業に参加いたします。

事業名称：「平成30年度老人保健健康増進等事業 これまでの介護予防取組をベースとした認知症・フレイル等の予防及び早期対応のための効果的な取組に対する調査研究事業」

参画企業：知の啓発社、ネスレ日本、シチズンシステムズ、産業経済新聞社、島津製作所
MCBI社(筑波大学発検査会社)、当社

実証事業フィールド：茨城県牛久市 牛久小学校区社会福祉協議会施設

事業期間：平成31年1月28日～3月29日 平日 13:00-16:00

当事業では認知症・フレイルの早期発見・早期予防を目的として、わが国の認知症研究の第一人者である東京医科歯科大学 朝田隆特任教授の監修の下、『もの忘れ・フレイルを吹っ飛ばせ！「人生をカッコよくプロジェクト」』として様々な対策ソリューションを保有する企業が集結し、高齢者にサービスを提供し、受入れ可能性を実証する事業で、下記の特徴を有しています。

- ①これまでの認知症予防教室等が高齢者に参加を募る提供形態であったのに対し、当事業では高齢者がサークル活動等で集まる場所に出前型で提供する
- ②トレーニングメニューが単一ではなく様々な企業から様々なメニューが提供され、高齢者が選択できる
- ③予防に向けた知識習得、トレーニング、スクリーニングチェック等、予防のPDCAサイクルを回せる事等、新しい運営形態を採っている

この中で当社は認知症対策ソリューション「暮らしの脳トレ※」を中心にサービス提供しています。

初日には同施設講堂にて牛久市長、朝田隆特任教授のご講演をはじめ、各社よりサービスのデモンストレーションが行われ、120名の定員に対し上回る参加応募があり参加が抽選となる程、盛況を博しました。以降コンスタントに30名程度のサービス利用が続いており順調な滑り出しとなっています。

また参加された高齢者からは「楽しみながらできそう。いろいろなサービスを体験してみたい」等好意的なご意見を頂いています。

当社は「暮らしの脳トレ」を中心に介護事業者への提供に加えて自治体等地域での活用モデル作りについても進めてまいります。

※日常生活課題を題材にしたクイズ形式の問題で、700種以上のコンテンツを有しております。

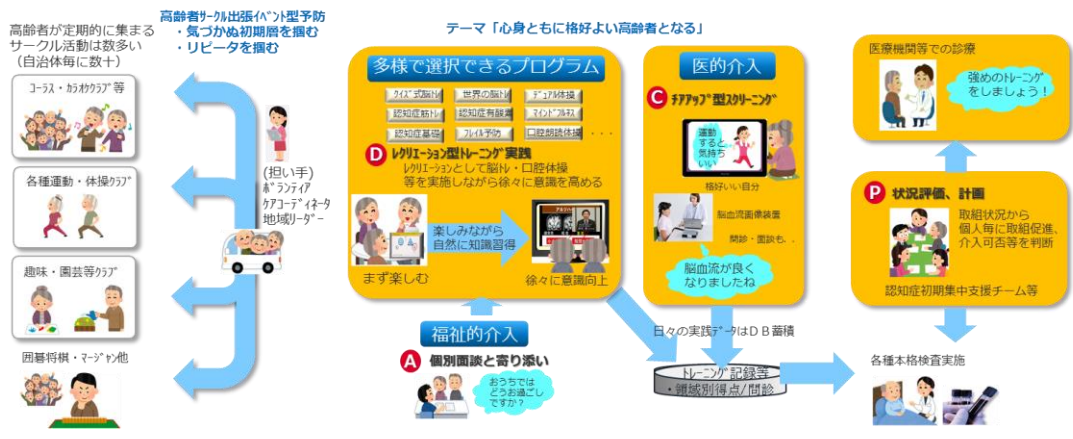
<概要図>

もの忘れ・フレイルを吹っ飛ばせ！「人生をカッコよく」プロジェクト 概要

◆従来型介護予防事業の課題 集客・来所型の限界 : ①気づかない患者は来ない。→気づかない内に進行する可能性
 認知症初期集中支援チームには気づいた患者が来るが、気づいた時には中重度化
 ②継続参加者は極少数。→単発イベントに終わっている

アナログ型の限界 : ③実施には専門家のノウハウが必要（人手とコストの課題）
 ④トレーニングや問診の結果が個人毎、時系列に評価できない

◆新しい介護予防モデルの実証 ①高齢者が集まる場所に向いて予防（出張型） → 自然に初期患者をつかむ
 ②単発に終わらずデータを採取（IT化） → 個人を継続してフォローする
 ③予防のPDCAサイクルを回す仕組み → 組織横断的フォロー
 ④認知症専門デイケア等で実績のある手法を採用 → 効果的な手法の適用



<朝田特任教授による基調講演>



<「暮らしの脳トレ」コンテンツ説明の様子>



<「暮らしの脳トレ」個人利用の様子>



【本件に対するお問い合わせ】

ニッセイ情報テクノロジー株式会社 ヘルスケア営業本部 溝上

e-mail: prevent@nissay-it.co.jp